

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）

くわみず病院 新・家庭医療専門研修プログラム

2. プログラム責任者			
氏名	福原 明	指導医認定番号	第 2014-1669 号
所属・役職	くわみず病院・副院長		
所在地・連絡先	住所 〒862-0954 熊本県熊本市中央区神水 1-14-41 電話 096-381-2248 FAX 096-384-5506 E-mail fukuhara@kuwamizu.jp		
連絡担当者氏名※・役職	迫田 佐枝子 ・くわみず病院研修担当事務		
連絡先	電話 096-381-2248 FAX 096-384-5506 E-mail kensyu@kuwamizu.jp		

※プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載。プログラム認定において疑義が生じたとき、学会側から担当者が責任者に連絡することがある。

3. 専攻医定員
1 年あたり (3) 名 (専門研修指導医数 × 3 × 研修期間年数 ÷ 2 = 総定員 (12) 名

4. プログラムの構成
<p>A. プログラムの種別と期間 該当するものは■に替える。</p> <p>■単独プログラム：総合診療専門医取得後に家庭医療専門研修プログラムに登録する場合</p> <p>■連動プログラム：総合診療専門研修プログラムに家庭医療専門研修プログラムを組み込む場合</p> <p>※単独プログラムと連動プログラムは、同一施設で本様式内に両者を記載することで、同時申請可能。 ※単独プログラムは研修プログラム、研修管理、研修施設を 6～8、連動プログラムはそれぞれ 9～11 に記載。</p>
<p>B. 専門研修の構成（月単位の換算による） 該当するプログラムの口を■に変更した上で、必要に応じて（ ）内の数字を記入すること。</p> <p>■単独プログラム： 家庭医療専門研修Ⅰ（診療所・中小病院）（18）カ月（18 カ月以上、12 カ月以上は同一施設で連続して研修） 家庭医療専門研修Ⅱ（病院総合診療部門）（6）カ月（6 カ月以上）</p> <p>■連動プログラム： 総合診療専門研修プログラムと同時研修で、 家庭医療専門研修Ⅰ（18）カ月、家庭医療専門研修Ⅱ（6）カ月 家庭医療専門研修プログラムの追加分において、家庭医療専門研修Ⅰ（24）カ月</p>

5. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長 主な研修施設となるくわみず病院は、熊本市中心部で地域医療を担う 100 床の小病院である。2 次救急の受け入れ、24 時間の患者対応、日常的に遭遇する疾患の診療、慢性疾患の外来管理、健診・検診、地域住民との医療懇談会などの予防活動の実施、訪問診療、特別養護老人ホームの嘱託、小規模多機能施設との連携、複雑な社会背景や複数の problem をもった高齢者の入院診療などを総合的に実施している。くわみず病院のほか、熊本市内、水俣市、天草市、菊陽町で地域に根ざす医療（主に内科、精神科）を実践している当法人の病院および診療所でも研修をおこなう。</p>
<p>B. プログラムの理念 総合的医療活動を担える知識・技能と日本プライマリ・ケア連合学会が提示する「家庭医を特徴づける能力」を地域医療の現場で獲得を目指す。</p>

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

C. 全体的な研修目標

専門研修終了後、いかなる病院・診療所においても主治医としての役割を果たすことができる。

D. 各ローテーション先で学べる内容や特色

地域に貢献できる家庭医を育てるという観点から以下の内容をプログラムを通じて一貫して実施する。特に社会医学的な視点については、医学的診断治療だけでなく、疫学、予防医学、地域の健康増進やプライマリヘルスケアの視点を涵養すること、また患者を身体だけでなく精神も診る「全人的医療」の視点及び行動科学的視点を重視する。

- a) 継続外来（くわみず病院の内科外来 1～2 単位／週）
- b) 在宅診療（1 単位／週）
- c) スタッフとのカンファレンス
- d) 救急研修（ER 型）
- e) 精神科研修
- f) 水俣病などの臨床研究
- g) 漢方
- h) 教育回診
- i) クリニカル・ジャズ（1 ヶ月の振り返り）

E. 指導体制に関する特長

プライマリ・ケア連合学会認定指導医 5 名在籍。（くわみず病院 2 名、水俣協立病院 1 名、天草ふれあいクリニック 0 名、くすのきクリニック 1 名）屋根瓦方式での研修で、きめ細かい指導を行っている。

F. 医療専門職、保健・福祉専門職の協力を得る方法

紹介、逆紹介や訪問診療を通じて、日常的に近隣の医療機関・福祉機関と連携している。

G. 地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法

地域住民の組織（友の会）があり、普段から学習会や講演会等の交流が行われている。

H. その他

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6. 単独プログラム：研修プログラム
A. 経験目標（臨床） 別紙（エクセルの様式）に記載。
B. 経験目標（研究） 次のいずれかの実績を条件とする。基準を満たす場合、□を■に変更する。 1. 論文：関連領域の学術雑誌に筆頭著者として論文掲載。原著論文、症例報告、総説論文など。商業誌でも可 2. 書籍：関連領域の書籍の執筆。部分的な執筆でも可とするが、筆頭であること 3. 学会発表：関連領域で3回以上。学術的な集会で抄録が確認できるもの。院内発表会等は除く ■上記が実施できるような指導体制、準備期間、支援が準備できる。
C. 学習環境 以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。 ■UpToDate®、Dynamed®、各種診療ガイドラインなどの情報源の利用：週1回以上
D. 臨床現場での学習機会 以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。 ■指導医とのビデオレビュー（各専攻医あたり）：6カ月に1回以上 ■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅰの症例カンファレンス：月2回以上 ■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅱの症例カンファレンス：週1回以上 ■困難事例のマネジメントをテーマにしたカンファレンス：月1回以上 ■指導医と専攻医が行う振り返り：月1回以上
E. Off-the-job training 以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。必須単位：臨床36単位（ウィメンズヘルス3単位※、災害医療3単位を含む）、教育6単位、研究6単位、マネジメント6単位（※ウィメンズヘルスは、産婦人科のブロック研修ないしは定期的な外来研修を行う場合は免除） ■上記に確実に参加できるよう支援できる。
F. 地域の医師会や行政と連携した地域保健活動 日本医師会かかりつけ医機能研修制度実地研修に定める以下の項目のうち、5つ以上実践する。 実践を予定する項目について□を■に変更する。 □1. 学校医・園医、警察業務への協力医 □2. 健康スポーツ医活動 □3. 感染症定点観測への協力 ■4. 健康相談、保健指導、行政（保健所）と契約して行っている検診・定期予防接種の実施 ■5. 早朝・休日・夜間・救急診療の実施・協力 □6. 産業医・地域産業保健センター活動の実施 ■7. 訪問診療の実施 ■8. 家族等のレスパイトケアの実施 ■9. 主治医意見書の記載 □10. 介護認定審査会への参加 ■11. 退院カンファレンスへの参加 □12. 地域ケア会議等※への参加（※会議の名称は地域により異なる） □13. 医師会、専門医会、自治会、保健所関連の各種委員 □14. 看護学校等での講義・講演 □15. 市民を対象とした講座等での講演 ■16. 地域行事（健康展、祭りなど）への医師としての出務
G. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱ研修期間中の形成評価（記録は保管すること） 各専攻医当たりの回数に関して以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。 ■研修手帳の記録の確認と共同振り返り：月1回以上 ■360度評価：6カ月に1回以上 ■Case-based discussion (CbD)：3カ月に1回以上 ■Mini-CEX（ビデオレビュー時でも可）：6カ月に1回以上

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

7. 単独プログラム：研修管理

A. 研修管理委員会：構成メンバー

氏名	所属	役職	職種
福原 明	くわみず病院	副院長	医師
大谷 寛	くわみず病院	内科診療部長	医師
小林 真一	菊陽病院	診療部長	医師
重岡 伸一	水俣協立病院	院長	医師
東雲 芳朗	くすのきクリニック	院長	医師
竹丸 恵子	くわみず病院	総看護師長	看護師
本高 勝久	くわみず病院	事務長	事務
迫田 佐枝子	くわみず病院	研修担当・課長	事務

※1 行が足りないときは、随時増やすこと。

※2 医師以外の職種、専攻医代表（専攻医在籍時）、専門研修に関わる各施設指導医を、最低各1名はメンバーに加える。

B. 施設群の構成

(1) 基幹施設

名称	研修担当分野 ^{※1}	プログラム責任者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
くわみず病院	①②	福原 明	2	西淀病院・ファミリークリニックなごみ 総合診療専門研修プログラム、高松平和 病院総合診療専門研修プログラム

(2) 連携施設^{※2}

名称	研修担当分野 ^{※1}	施設代表者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
水俣協立病院	①②	重岡 伸一	1	
くすのきクリニック	①	東雲 芳朗	1	
天草ふれあいクリニック	①	田嶋 剛	1	

※1 ①家庭医療専門研修Ⅰ、②家庭医療専門研修Ⅱ、③管理業務のみ（基幹施設のみ該当）の形で番号を記入。

※2 専門研修連携施設については、行が足りないときは随時増やすこと。

(3) 基幹施設・連携施設での研修期間（連携施設での研修期間の方が長い場合、理由を記す）

基幹施設 (18) カ月	連携施設での研修期間の方が長い理由：
連携施設 (6) カ月	

C. 研修資源の予算

■研修施設として、教育に割り当てる資源に対する責務と権限に関する明確な方針が存在している。

D. プログラム責任者履歴

記入日	2019年10月23日
氏名	福原 明
卒後年数	19年
主な職歴	2000年4月 特定医療法人芳和会くわみず病院入職（内科，研修医） 2000年10月 同法人水俣協立病院異動（内科，研修医） 2001年4月 健和会大手町病院入職（救急，研修医） 2001年7月 鹿児島生協病院入職（内科，研修医） 2001年11月 特定医療法人芳和会くわみず病院入職（内科，医員） 2003年4月 同法人水俣協立病院へ異動（内科，医員） 2005年4月 同法人くわみず病院へ異動（内科，医員） 2018年4月 同法人くわみず病院 副院長就任
専門医・指導医資格	プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本睡眠学会専門医、総合診療特任指導医
主な教育歴	2014年4月～ 熊本県民主医療機関連合会 研修委員長
必要な講習会受講歴	2013年7月 プライマリケア連合学会主催 指導医養成講習会
その他	

※プログラム副責任者がいる場合は、以下のスペースに欄をコピーして履歴を示すこと。

E. 指導医の立場

■指導医は、認定基準を満たす指導ができるだけの業務時間と権限を割り当てられている。

F. 専攻医の立場

■専攻医の身分や給与などの処遇は、研修期間を通して適切に担保され、関係者に周知されている。

■専攻医は、医療チームの一員として、他に働いている医師と同様の診療業務（休日や夜間の時間帯を含む）に携わる。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

G. メンター制度

■専攻医の研修上の問題解決やキャリア形成の支援をするためのメンター制度を導入している。

H. 総括評価

■下記が実施できるような評価体制が準備できる。

1. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱの修了時に、研修手帳に記載された自己評価の確認と到達度評価を指導医が実施する。
2. 研修期間を満了し、かつ家庭医療専門研修Ⅰを18カ月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6カ月以上修了している。指導医から修了に足る評価が得られたことをプログラム責任者が確認する。
3. 専攻医自身が作成したポートフォリオにおいて全領域で基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
4. 経験目標は研修プログラムに定められた基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
5. 360度評価、CbD、Mini-CEXの結果は、各施設で定めた基準に達していることをプログラム責任者が確認する。

I. 研修修了認定の方法

■修了判定会議のメンバーは、研修管理委員会と同一（専攻医代表のみ退席）

□その他（

）

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

8. 単独プログラム：研修施設

8-1. 家庭医療専門研修 I

研修施設名 1	くわみず病院	診療科名 (内科)
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 200 床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) ()
家庭医療専門研修 I における研修期間	(18) カ月	
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり	専攻医の希望や研修の進捗状況によって、12 ヶ月と 6 か月のブロック研修に分けることがある
※同一施設で 12 カ月以上の継続研修が含まれなければならない。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		
指導医氏名 1	福原 明	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (第 2014-1669 号)
指導医氏名 2	赤木 正彦	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (第 2012-164 号)

要件 (各項目の全てを満たすとき、 を塗りつぶす (のように))

施設要件

各専攻医当たりの経験症例数として、

外来のべ患者数：概ね 30 人/週以上である。

後期高齢者：経験症例数全体の 10% 以上である。

学童期以下の小児：経験症例数全体の 5% 以上である。

※満たさない場合、以下のいずれかが必要。

院内小児科で経験症例を補完する※

同一地域の院外小児科診療所、病院小児科等で経験症例を補完する※：施設名 ()

医療資源の乏しい地域に位置し、上記の要件を満たさないが、当該年齢層の患者を断らずに診療する。

年間患者数実績 () 人、当該年齢層の患者数 () 人

当該年齢層の患者の診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (小児の経験症例数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。

※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人/週以上である。

訪問診療患者数概ね 5 人/週以上、終末期医療概ね 1 人/6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。

※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

同一地域で訪問診療を提供している他の医療機関で補完する※：施設名 ()

訪問診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (訪問診療患者数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。

※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別 z z z z z z z z z z」に追記すること。

体制やコンセプト

アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。

具体的な体制と方略 (24 時間常勤医師が院内におり対応できる体制にしている)

継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。

具体的な体制と方略 (外来で同一患者の慢性疾患を継続的に管理することが可能)

包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。

具体的な体制と方略 (救急担当で 2 次救急を経験、予約外来で急性疾患を経験、予約外来で慢性期の管理や検診などの予防・健康増進を経験、訪問診療で緩和ケアを経験できる)

多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。

具体的な体制と方略 (専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている。また、特別養護老人ホームや小規模多機能施設が関連施設として存在し、適切に連携を図っており、また関連施設外の老人保健施設などからの紹介もある)

家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。

具体的な状況 (あらゆる年齢層の診療を実施し、家族背景を探ることを教育の中で必須としている)

地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。

具体的な内容与方法 (地域住民組織 (友の会) との懇談会や講演会を定期的に設定することで、集団的な予防アプローチを実施している)

週当たり研修日数：(5.5) 日/週

※本研修 (家庭医療専門研修 I) は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。

家庭医療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週 1 日まで) ※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。

内容	院内小児科での小児科研修
日数	1 日/週

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

研修施設名 2	水俣協立病院	診療科名 (内科)
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 200 床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) ()
家庭医療専門研修 I における研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	専攻医の希望や研修の進捗状況によって、3 ヶ月単位で 2 ブロック研修に分けることがある
※同一施設で 12 カ月以上の継続研修が含まなければならない。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		
指導医氏名 1	重岡 伸一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (第 2013-347 号)
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))		
施設要件		
各専攻医当たりの経験症例数として、 <input checked="" type="checkbox"/> 外来のべ患者数：概ね 30 人/週以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 後期高齢者：経験症例数全体の 10% 以上である。 <input type="checkbox"/> 学童期以下の小児：経験症例数全体の 5% 以上である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。 <input type="checkbox"/> 院内小児科で経験症例を補完する* <input type="checkbox"/> 同一地域の院外小児科診療所、病院小児科等で経験症例を補完する*：施設名 () <input type="checkbox"/> 医療資源の乏しい地域に位置し、上記の要件を満たさないが、当該年齢層の患者を断らずに診療する。 年間患者数実績 () 人、当該年齢層の患者数 () 人 <input checked="" type="checkbox"/> 当該年齢層の患者の診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (小児の経験症例数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。		
<input checked="" type="checkbox"/> 精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人/週以上である。		
<input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療患者数概ね 5 人/週以上、終末期医療概ね 1 人/6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 <input type="checkbox"/> 同一地域で訪問診療を提供している他の医療機関で補完する*：施設名 () <input type="checkbox"/> 訪問診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (訪問診療患者数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。		
体制やコンセプト		
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (24 時間常勤医師がオンコール体制を取っている)		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来で同一患者の慢性疾患を継続的に管理することが可能)		
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (予約外来で急性疾患を経験、予約外来で慢性期の管理や検診などの予防・健康増進を経験訪問診療で緩和ケアを経験できる)		
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている。また、地域の特別養護老人ホームと適切に連携を図っており、また関連施設外の老人保健施設などからの紹介もある)		
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (あらゆる年齢層の診療を実施し、家族背景を探ることを教育の中で必須としている)		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (地域住民組織 (友の会) との懇談会や講演会を定期的に設定することで、集団的な予防アプローチを実施している)		
週当たり研修日数：(5.5) 日/週 ※本研修 (家庭医療専門研修 I) は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。		
家庭医療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週 1 日まで) ※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。		
内容	くわみず病院での小児科研修	
日数	1 日/週	

研修施設名 3	くすのきクリニック	診療科名 (内科)
施設種別	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 200 床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) ()
家庭医療専門研修 I における研修期間	(6) カ月	

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

指導医氏名 1	田嶋 剛	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
施設要件			
各専攻医当たりの経験症例数として、			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来のべ患者数：概ね 30 人／週以上である。			
<input checked="" type="checkbox"/> 後期高齢者：経験症例数全体の 10%以上である。			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の小児：経験症例数全体の 5%以上である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。			
<input type="checkbox"/> 院内小児科で経験症例を補完する*			
<input type="checkbox"/> 同一地域の院外小児科診療所、病院小児科等で経験症例を補完する*：施設名（ ）			
<input type="checkbox"/> 医療資源の乏しい地域に位置し、上記の要件を満たさないが、当該年齢層の患者を断らずに診療する。 年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該年齢層の患者の診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設（小児の経験症例数の条件を満たす）で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う（経過措置）。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。			
<input checked="" type="checkbox"/> 精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人／週以上である。			
<input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療患者数概ね 5 人／週以上、終末期医療概ね 1 人／6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。			
<input type="checkbox"/> 同一地域で訪問診療を提供している他の医療機関で補完する*：施設名（ ）			
<input type="checkbox"/> 訪問診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設（訪問診療患者数の条件を満たす）で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う（経過措置）。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。			
体制やコンセプト			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（24 時間常勤医師がオンコール体制を取っている）			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（外来で同一患者の慢性疾患を継続的に管理することが可能）			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（予約外来で急性疾患を経験、予約外来で慢性期の管理や検診などの予防・健康増進を経験訪問診療で緩和ケアを経験できる）			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている。また、地域の特別養護老人ホームと適切に連携を図っており、また関連施設外の老人保健施設などからの紹介もある）			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（あらゆる年齢層の診療を実施し、家族背景を探ることを教育の中で必須としている）			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（地域住民組織（友の会）との懇談会や講演会を定期的に設定することで、集団的な予防アプローチを実施している）			
週当たり研修日数：(5.5) 日／週 ※本研修（家庭医療専門研修 I）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。			
家庭医療専門研修 I（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。			
内容	くわみず病院での小児科研修		
日数	1 日/週		

8-2. 家庭医療専門研修 II			
研修施設名 1	くわみず病院	診療科名（	内科）
施設情報	病院病床数（	100）床	診療科病床数（）床
家庭医療専門研修 II における研修期間		（ 6 ）カ月	
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*		
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。			
指導医氏名 1	福原 明	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号（ 第 2014-1669 号 ）
指導医氏名 2	赤木 正彦	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号（ 第 2012-164 号 ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

施設要件	
<ul style="list-style-type: none"> ■一般病床を有する ■救急医療を提供している 	
各専攻医当たりの経験症例数	
<ul style="list-style-type: none"> ■退院サマリー作成数：概ね 8 人／月以上 <ul style="list-style-type: none"> ■うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね 4 人／月以上 ■退院前カンファレンス参加件数：概ね 1 件／月以上 ■外来患者数：概ね 15 人／週以上 <ul style="list-style-type: none"> ■うち、新患・定期外の急性の問題：概ね 5 人／週以上 ■救急外来患者数：概ね 3 人／週以上 	
病棟診療	
<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院の 5 割以上が高齢者であり、認知症や夜間せん妄を持つ方も多い。院内に高齢者医療にかかわるチーム等を設置し対応をおこなっている。） ■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（一人の患者が複数の問題をもっていることも珍しくなく、積極的にその解決にあたっている） ■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている） ■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（日常的な指導医とのディスカッション、多職種カンファレンス、医局での症例検討で振り返りを積極的に実施している） ■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（癌や非癌患者の看取りも多く、カンファレンスやディスカッションをしながら経験してもらっている） ■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（家族、ケアマネージャーなど在宅医療を担うスタッフが参加する多職種カンファレンスを日常的に実施する） ■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（当院や関連診療所の往診管理患者の急病時にはすぐに受け入れ、入院可能な体制をとっている） 	
外来診療	
<ul style="list-style-type: none"> ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来や初診外来を担当し、経験できる体制としている） ■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（一般外来及び救急外来は臓器別の選択はしていない） ■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（中小規模の病院であり臓器別選択のない外来体制をとっているため、頻度の高い症候・疾患への対応が多い） ■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（週 1 回の回診及びケースカンファレンス、月 1 回の振り返りにて教育を行う） ■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（すべて総合診療形式であり、臓器別にならず包括的にみる体制となっている） ■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（日常的な指導医へのコンサルト、週 1 回の回診及びケースカンファレンスにて教育を行う。必要時は臓器別専門家へのコンサルトを行う） 	
週当たり研修日数：（ 5.5 ）日／週	
※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はこちらに記載しない。	
内容	
日数	日/週
研修施設名 2	水俣協立病院 診療科名（ 内科 ）
施設情報	病院病床数（ 60 ）床 診療科病床数（ ）床
家庭医療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし → 特例申請※
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。	
指導医氏名 1	重岡 伸一 ■常勤 □非常勤 指導医認定番号 第 2013-347 号
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

施設要件	
<ul style="list-style-type: none"> ■一般病床を有する ■救急医療を提供している 	
各専攻医当たりの経験症例数	
<ul style="list-style-type: none"> ■退院サマリー作成数：概ね 8 人／月以上 <ul style="list-style-type: none"> ■うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね 4 人／月以上 ■退院前カンファレンス参加件数：概ね 1 件／月以上 ■外来患者数：概ね 15 人／週以上 <ul style="list-style-type: none"> ■うち、新患・定期外の急性の問題：概ね 5 人／週以上 ■救急外来患者数：概ね 3 人／週以上 	
病棟診療	
<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院の 5 割以上が高齢者であり、院内に高齢者医療にかかわるチーム等を設置し対応をおこなっている。） ■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（一人の患者が複数の問題をもっていることも珍しくなく、積極的にその解決にあたっている） ■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている） ■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（日常的な指導医とのディスカッション、多職種カンファレンス、医局での症例検討で振り返りを積極的に実施している） ■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（癌や非癌患者の看取りも多く、カンファレンスやディスカッションをしながら経験してもらっている） ■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（家族、ケアマネージャーなど在宅医療を担うスタッフが参加する多職種カンファレンスを日常的に実施する） ■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（当院や関連診療所の往診管理患者の急病時にはすぐに受け入れ、入院可能な体制をとっている） 	
外来診療	
<ul style="list-style-type: none"> ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（研修医が予約外外来の担当を行う。） ■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（一般外来及び救急外来は臓器別の選択はしていない） ■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（臓器別選択のない外来体制をとっているため、頻度の高い症候・疾患への対応が多い） ■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（週 1 回の回診及びケースカンファレンス、月 1 回の振り返りにて教育を行う） ■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（すべて総合診療形式であり、臓器別にならず包括的にみる体制となっている） ■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（日常的な指導医へのコンサルト、週 1 回の回診及びケースカンファレンスにて教育を行う。必要時は臓器別専門家へのコンサルトを行う） 	
週当たり研修日数：（ 5.5 ） 日／週	
※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	
日数	日/週

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

8-3. 領域別研修：その他*						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
小児科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
救急	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
産婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
放射線科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
臨床検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
その他 ()	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		

*家庭医療専門研修プログラム期間中に行うものだけ記載すればよい。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

9. 連動プログラム：研修プログラム
<p>A. 経験目標（臨床） 別紙（エクセルの様式）に記載。</p>
<p>B. 経験目標（研究） 次のいずれかの実績を条件とする。基準を満たす場合、□を■に変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 論文：関連領域の学術雑誌に筆頭著者として論文掲載。原著論文、症例報告、総説論文など。商業誌でも可 書籍：関連領域の書籍の執筆。部分的な執筆でも可とするが、筆頭であること 学会発表：関連領域で3回以上。学術的な集会で抄録が確認できるもの。院内発表会等は除く <p>■上記が実施できるような指導体制、準備期間、支援が準備できる。</p>
<p>C. 学習環境 以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。 ■UpToDate®、Dynamed®、各種診療ガイドラインなどの情報源の利用：週1回以上</p>
<p>D. 臨床現場での学習機会 以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■指導医とのビデオレビュー（各専攻医あたり）：6カ月に1回以上 ■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅰの症例カンファレンス：月2回以上 ■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅱの症例カンファレンス：週1回以上 ■困難事例のマネジメントをテーマにしたカンファレンス：月1回以上 ■指導医と専攻医が行う振り返り：月1回以上
<p>E. Off-the-job training 以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。必須単位：臨床36単位（ウィメンズヘルス3単位※、災害医療3単位を含む）、教育6単位、研究6単位、マネジメント6単位（※ウィメンズヘルスは、産婦人科のブロック研修ないしは定期的な外来研修を行う場合は免除） ■上記に確実に参加できるよう支援できる。</p>
<p>F. 地域の医師会や行政と連携した地域保健活動 日本医師会かかりつけ医機能研修制度実地研修に定める以下の項目のうち、5つ以上実践する。 実践を予定する項目について□を■に変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> □1. 学校医・園医、警察業務への協力医 □2. 健康スポーツ医活動 □3. 感染症定点観測への協力 ■4. 健康相談、保健指導、行政（保健所）と契約して行っている検診・定期予防接種の実施 ■5. 早朝・休日・夜間・救急診療の実施・協力 □6. 産業医・地域産業保健センター活動の実施 ■7. 訪問診療の実施 ■8. 家族等のレスパイトケアの実施 ■9. 主治医意見書の記載 □10. 介護認定審査会への参加 ■11. 退院カンファレンスへの参加 □12. 地域ケア会議等※への参加（※会議の名称は地域により異なる） □13. 医師会、専門医会、自治会、保健所関連の各種委員 □14. 看護学校等での講義・講演 □15. 市民を対象とした講座等での講演 ■16. 地域行事（健康展、祭りなど）への医師としての出務
<p>G. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱ研修期間中の形成評価（記録は保管すること） 各専攻医当たりの回数に関して以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■研修手帳の記録の確認と共同振り返り：月1回以上 ■360度評価：6カ月に1回以上 ■Case-based discussion (CbD)：3カ月に1回以上 ■Mini-CEX（ビデオレビュー時でも可）：6カ月に1回以上

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

10. 連動プログラム：研修管理

A. 研修管理委員会：構成メンバー

氏名	所属	役職	職種
福原 明	くわみず病院	副院長	医師
大谷 寛	くわみず病院	内科診療部長	医師
小林 真一	くわみず病院	診療部長	医師
重岡 伸一	水俣協立病院	院長	医師
東雲 芳朗	くすのきクリニック	院長	医師
田嶋 剛	天草ふれあいクリニック	院長	医師
竹丸 恵子	くわみず病院	総看護師長	看護師
本高 勝久	くわみず病院	事務長	事務
迫田 佐枝子	くわみず病院	研修担当事務・課長	事務

※1 行が足りないときは、随時増やすこと。

※2 医師以外の職種、専攻医代表（専攻医在籍時）、専門研修に関わる各施設指導医を、最低各1名はメンバーに加える。

B. 施設群の構成

(1) 基幹施設

名称	研修担当分野 ^{※1}	プログラム責任者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
くわみず病院	①②	福原 明	2	西淀病院・ファミリークリニックなごみ 総合診療専門研修プログラム、高松平和 病院総合診療専門研修プログラム

(2) 連携施設^{※2}

名称	研修担当分野 ^{※1}	施設代表者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
水俣協立病院	①②	重岡 伸一	1	
くすのきクリニック	①	東雲芳朗	1	
天草ふれあいクリニック	①	田嶋 剛	0	

※1 ①家庭医療専門研修Ⅰ、②家庭医療専門研修Ⅱ、③管理業務のみ（基幹施設のみ該当）の形で番号を記入。

※2 専門研修連携施設については、行が足りないときは随時増やすこと。

(3) 基幹施設・連携施設での研修期間（連携施設での研修期間の方が長い場合、理由を記す）

基幹施設 (18) カ月	連携施設での研修期間の方が長い理由：
連携施設 (6) カ月	

C. 研修資源の予算

■研修施設として、教育に割り当てる資源に対する責務と権限に関する明確な方針が存在している。

D. プログラム責任者履歴

記入日	2019年10月23日
氏名	福原 明
卒後年数	19年
主な職歴	2000年4月 特定医療法人芳和会くわみず病院入職（内科，研修医） 2000年10月 同法人水俣協立病院異動（内科，研修医） 2001年4月 健和会大手町病院入職（救急，研修医） 2001年7月 鹿児島生協病院入職（内科，研修医） 2001年11月 特定医療法人芳和会くわみず病院入職（内科，医員） 2003年4月 同法人水俣協立病院へ異動（内科，医員） 2005年4月 同法人くわみず病院へ異動（内科，医員） 2018年4月 同法人くわみず病院 副院長就任
専門医・指導医資格	プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本睡眠学会専門医、総合診療特任指導医
主な教育歴	2014年4月～ 熊本県民主医療機関連合会 研修委員長
必要な講習会受講歴	2013年7月 プライマリケア連合学会主催 指導医養成講習会
その他	

※プログラム副責任者がいる場合は、以下のスペースに欄をコピーして履歴を示すこと。

E. 指導医の立場

■指導医は、認定基準を満たす指導ができるだけの業務時間と権限を割り当てられている。

F. 専攻医の立場

■専攻医の身分や給与などの処遇は、研修期間を通して適切に担保され、関係者に周知されている。

■専攻医は、医療チームの一員として、他に働いている医師と同様の診療業務（休日や夜間の時間帯を含む）に携わる。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

G. メンター制度

■専攻医の研修上の問題解決やキャリア形成の支援をするためのメンター制度を導入している。

H. 総括評価

■下記が実施できるような評価体制が準備できる。

1. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱの修了時に、研修手帳に記載された自己評価の確認と到達度評価を指導医が実施する。
2. 研修期間を満了し、かつ家庭医療専門研修Ⅰを18カ月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6カ月以上修了している。指導医から修了に足る評価が得られたことをプログラム責任者が確認する。
3. 専攻医自身が作成したポートフォリオにおいて全領域で基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
4. 経験目標は研修プログラムに定められた基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
5. 360度評価、CbD、Mini-CEXの結果は、各施設で定めた基準に達していることをプログラム責任者が確認する。

I. 研修修了認定の方法

■修了判定会議のメンバーは、研修管理委員会と同一（専攻医代表のみ退席）

□その他（

）

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

研修施設名 2	水俣協立病院	診療科名 (内科)
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 200 床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) ()
家庭医療専門研修 I における研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	専攻医の希望や研修の進捗状況によって、3 ヶ月単位で 2 ブロック研修に分けることがある
※同一施設で 12 カ月以上の継続研修が含まれなければならない。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		
指導医氏名 1	重岡 伸一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 (第 2013-347 号)
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))		
施設要件		
各専攻医当たりの経験症例数として、		
<input checked="" type="checkbox"/> 外来のべ患者数：概ね 30 人/週以上である。		
<input checked="" type="checkbox"/> 後期高齢者：経験症例数全体の 10% 以上である。		
<input type="checkbox"/> 学童期以下の小児：経験症例数全体の 5% 以上である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。		
<input type="checkbox"/> 院内小児科で経験症例を補完する*		
<input type="checkbox"/> 同一地域の院外小児科診療所、病院小児科等で経験症例を補完する*：施設名 ()		
<input type="checkbox"/> 医療資源の乏しい地域に位置し、上記の要件を満たさないが、当該年齢層の患者を断らずに診療する。 年間患者数実績 () 人、当該年齢層の患者数 () 人		
<input checked="" type="checkbox"/> 当該年齢層の患者の診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (小児の経験症例数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。		
<input checked="" type="checkbox"/> 精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人/週以上である。		
<input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療患者数概ね 5 人/週以上、終末期医療概ね 1 人/6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。		
<input type="checkbox"/> 同一地域で訪問診療を提供している他の医療機関で補完する*：施設名 ()		
<input type="checkbox"/> 訪問診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (訪問診療患者数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。		
体制やコンセプト		
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (24 時間常勤医師がオンコール体制を取っている)		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来で同一患者の慢性疾患を継続的に管理することが可能)		
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (予約外来で急性疾患を経験、予約外来で慢性期の管理や検診などの予防・健康増進を経験訪問診療で緩和ケアを経験できる)		
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている。また、地域の特別養護老人ホームと適切に連携を図っており、また関連施設外の老人保健施設などからの紹介もある)		
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (あらゆる年齢層の診療を実施し、家族背景を探ることを教育の中で必須としている)		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (地域住民組織 (友の会) との懇談会や講演会を定期的に設定することで、集団的な予防アプローチを実施している)		
週当たり研修日数：(5.5) 日/週 ※本研修 (家庭医療専門研修 I) は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。		
家庭医療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週 1 日まで) ※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。		
内容	くわみず病院での小児科研修	
日数	1 日/週	
研修施設名 3	くすのきクリニック	診療科名 (内科)
施設種別	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 200 床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) ()
家庭医療専門研修 I における研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり	専攻医の希望や研修の進捗状況によって、3 ヶ月単位で 2 ブ

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

各専攻医当たりの経験症例数		
<ul style="list-style-type: none"> ■退院サマリー作成数：概ね 8 人／月以上 <ul style="list-style-type: none"> ■うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね 4 人／月以上 ■退院前カンファレンス参加件数：概ね 1 件／月以上 ■外来患者数：概ね 15 人／週以上 <ul style="list-style-type: none"> ■うち、新患・定期外の急性の問題：概ね 5 人／週以上 ■救急外来患者数：概ね 3 人／週以上 		
病棟診療		
<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院の 5 割以上が高齢者であり、認知症や夜間せん妄を持つ方も多い。院内に高齢者医療にかかわるチーム等を設置し対応をおこなっている。） ■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（一人の患者が複数の問題をもっていることも珍しくなく、積極的にその解決にあたっている） ■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている） ■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（日常的な指導医とのディスカッション、多職種カンファレンス、医局での症例検討で振り返りを積極的に実施している） ■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（癌や非癌患者の看取りも多く、カンファレンスやディスカッションをしながら経験してもらっている） ■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（家族、ケアマネージャーなど在宅医療を担うスタッフが参加する多職種カンファレンスを日常的に実施する） ■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（当院や関連診療所の往診管理患者の急病時にはすぐに受け入れ、入院可能な体制をとっている） 		
外来診療		
<ul style="list-style-type: none"> ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来や初診外来を担当し、経験できる体制としている） ■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（一般外来及び救急外来は臓器別の選択はしていない） ■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（中小規模の病院であり臓器別選択のない外来体制をとっているため、頻度の高い症候・疾患への対応が多い） ■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（週 1 回の回診及びケースカンファレンス、月 1 回の振り返りにて教育を行う） ■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（すべて総合診療形式であり、臓器別にならず包括的にみる体制となっている） ■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（日常的な指導医へのコンサルト、週 1 回の回診及びケースカンファレンスにて教育を行う。必要時は臓器別専門家へのコンサルトを行う） 		
週当たり研修日数：（ 5.5 ）日／週		
※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。		
家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。		
内容		
日数	日/週	
研修施設名 2	水俣協立病院	診療科名（ 内科 ）
施設情報	病院病床数（ 60 ）床	診療科病床数（ ）床
家庭医療専門研修Ⅱにおける研修期間		（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		
指導医氏名 1	重岡 伸一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号 第 2013-347 号
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））		
施設要件		
<ul style="list-style-type: none"> ■一般病床を有する ■救急医療を提供している 		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

各専攻医当たりの経験症例数

- 退院サマリー作成数：概ね 8 人／月以上
 - うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね 4 人／月以上
- 退院前カンファレンス参加件数：概ね 1 件／月以上
- 外来患者数：概ね 15 人／週以上
 - うち、新患・定期外の急性の問題：概ね 5 人／週以上
- 救急外来患者数：概ね 3 人／週以上

病棟診療

- 高齢者（特に虚弱）ケア
具体的な体制と方略（入院の 5 割以上が高齢者であり、院内に高齢者医療にかかわるチーム等を設置し対応をおこなっている。）
- 複数の健康問題を抱える患者への対応
具体的な体制と方略（一人の患者が複数の問題をもっていることも珍しくなく、積極的にその解決にあたっている）
- 必要に応じた専門医との連携
具体的な体制と方略（専門的対応が求められる場合は、他の専門の医療機関に速やかに紹介が可能となっている）
- 心理・社会・倫理的複雑事例への対応
具体的な体制と方略（日常的な指導医とのディスカッション、多職種カンファレンス、医局での症例検討で振り返りを積極的に実施している）
- 癌・非癌患者の緩和ケア
具体的な体制と方略（癌や非癌患者の看取りも多く、カンファレンスやディスカッションをしながら経験してもらっている）
- 退院支援と地域連携機能の提供
具体的な体制と方略（家族、ケアマネージャーなど在宅医療を担うスタッフが参加する多職種カンファレンスを日常的に実施する）
- 在宅患者の入院時対応
具体的な体制（当院や関連診療所の往診管理患者の急病時にはすぐに受け入れ、入院可能な体制をとっている）

外来診療

- 救急外来及び初診外来
具体的な体制と方略（研修医が予約外外来の担当を行う。）
- 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者
具体的な体制と方略（一般外来及び救急外来は臓器別の選択はしていない）
- よくある症候と疾患
具体的な体制と方略（臓器別選択のない外来体制をとっているため、頻度の高い症候・疾患への対応が多い）
- 臨床推論・EBM
具体的な体制と方略（週 1 回の回診及びケースカンファレンス、月 1 回の振り返りにて教育を行う）
- 複数の健康問題への包括的なケア
具体的な体制と方略（すべて総合診療形式であり、臓器別にならず包括的にみる体制となっている）
- 診断困難患者への対応
具体的な体制と方略（日常的な指導医へのコンサルト、週 1 回の回診及びケースカンファレンスにて教育を行う。必要時は臓器別専門家へのコンサルトを行う）

週当たり研修日数：（ 5.5 ） 日／週
※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。

家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。

内容	
日数	日/週

8-3. 領域別研修：その他*						
研修領域	必修・選択別	ブロック・兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と診療科名	指導医氏名
内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
小児科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
救急	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> ブロック	() 日/週	() カ月		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

	□選択	□兼任			
精神科／ 心療内科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
産婦人科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
皮膚科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
泌尿器科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
眼科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
耳鼻咽喉科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
放射線科	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
臨床検査	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
リハビリ テーション	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	
その他 ()	□必修 □選択	□ﾌﾟﾛｸﾞ □兼任	() 日/週	() カ月	